

「憐れみの器として、異邦人の中から召し出した」 2018年10月04日

ローマの信徒への手紙 9章 19節～24節 ところで、あなたは言うでしょう。「ではなぜ、神はなおも人を責められるのだろうか。だれが神の御心に逆らうことができようか」と。人よ、神に口答えするとは、あなたは何者か。造られた物が造った者に、「どうしてわたしをこのように造ったのか」と言えるでしょうか。焼き物師は同じ粘土から、一つを貴いことに用いる器に、一つを貴くないことに用いる器に造る権限があるのではないか。神はその怒りを示し、その力を知らせようとしておられたが、怒りの器として滅びることになっていた者たちを寛大な心で耐え忍ばれたとすれば、それも、憐れみの器として栄光を与えようと準備しておられた者たちに、御自分の豊かな栄光をお示しになるためであったとすれば、どうでしょう。神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中からも召し出してくださいました。

パウロは、「このように、神は御自分が憐れみたいと思う者を憐れみ、かたくなにしたと思う者をかたくなにされるのです」と語った。神は人間の肉の思いや行いの全てを超えて、神のご計画に則って、人々と向き合い、世界を支配しておられる。そうすると、人間の出る幕は一切なくなる。当然、「それでいいのか」と不満が出る。それに対し、パウロは、「『だれが神の御心に逆らうことができようか』と。人よ、神に口答えするとは、あなたは何者か。造られた物が造った者に、『どうしてわたしをこのように造ったのか』と言えるでしょうか」と、創造主なる神に被造物が逆らい、反論することは、一切できないと語る。そして、陶器師を例に用いて、「焼き物師は同じ粘土から、一つを貴いことに用いる器に、一つを貴くないことに用いる器に造る権限があるのではないか」と説明している。イザヤは、「お前たちはなんとゆがんでいることか。陶工が粘土と同じに見なされるのか。造られた者が、造った者に言うのか／『彼がわたしを造ったのではない』と。陶器が、陶工に言うのか／「彼には分別がない（イザヤ書 29：16）」と。」と語り、エレミヤは、「イスラエルの家よ、この陶工がしたように、わたしもお前たちに対してなしえないと言うのか、と主は言われる。見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある（エレミヤ書 18：6）」と語っている。創造主と被造物の関係は、陶工が粘土を自在に用いて、好みの陶器を作る関係に譬えられることが多い。陶工は意のままに作り、それに陶器は文句を言えないのである。

「神はその怒りを示し、その力を知らせようとしておられたが、怒りの器として滅びることになっていた者たちを寛大な心で耐え忍ばれたとすれば、それも、憐れみの器として栄光を与えようと準備しておられた者たちに、御自分の豊かな栄光をお示しになるためであったとすれば、どうでしょう。」持って回った言い方であるが、怒りの器として滅びることになっていた異邦人に対し、神は寛大な心で耐え忍び、憐れみの器として栄光を与えたのであれば、最初から憐れみの器として準備していたユダヤ人には、この憐れみは起こり得ないのかと言っている訳である。「神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中からも召し出してくださいました。」と、パウロは「ユダヤ人からだけでなく」、異邦人も憐れみの器として召し出された。ということは、キリストの福音を拒んだユダヤ人が異邦人より先に、既に「憐れみの器」であると言い張っている。イスラエル人への愛と誇りを主張している訳である。